

## ～国際化が進む教育現場～ 「言葉の壁をなくそうプロジェクト」 活用編

2020年8月20日、船橋東ロータリークラブでは市内小中学校に向けてAI翻訳機18台を船橋市に寄贈しました。その後 このAI翻訳機がどのように活用されているのかを確認するため、11月17日 船橋市立葛飾小学校の4年生のクラスへ山本社会奉仕委員長をはじめ4名の会員と船橋市教育委員会指導課の先生にもご同行頂き訪問してきました。

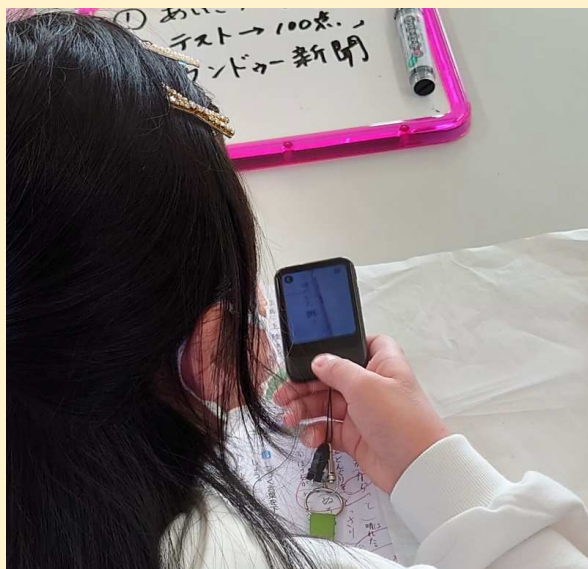
訪問時は5時間目「道徳」の授業で、実際にAI翻訳機の活用している場面を見学しました。先生がクラスの児童全体に向けてお話しした後、外国籍の児童のもとへ行き、翻訳機に向かって質問を話していました。その内容を外国籍の児童が翻訳し内容を確認し考えや答えをAI翻訳機に語り、先生との意思疎通を図っていました。また、他の児童がみんなの前で意見を発表後、外国籍の児童のもとへ行き翻訳機に向かって同じ内容を話し翻訳後の内容を確認し理解を深めていました。



外国籍の児童が1人でAI翻訳機を使用していると気が引ける場面もあるとの説明を受けましたが先生方が従来の授業の進め方に工夫を凝らし、また、クラスのみなさんがそれをサポートする連帯感がとても素晴らしいと感じました。

外国籍の児童はAI翻訳機の事を「私の友達」と呼び、いつも放さず持ち歩いていたのが印象的でした。





6時間目は日本語指導の先生とマンツーマンで勉強していました。この時間はドリルや問題集を使用して授業を進めていましたが、解らない単語や表現があるとAI翻訳機でパシャリと写真を撮り、即翻訳し回答していました。

AI翻訳機の様々な機能を使いこなしていました。

日本語が解らない生徒児童は「言葉の壁」で孤立しがちで友達もできづらかったり、授業の内容が解らない事が多いと聞いておりました。このAI翻訳機の導入により様々な問題が解決でき、みんなが平等に学習の喜びを体感しまた、クラスの友達とのコミュニケーションも取れることで更に学校生活が楽しく過ごせると確信しました。

授業を見学した後、秋元大輔校長とお話する機会を頂きました。実は今回の翻訳機の寄贈は学校側もメリットがあり大変助かったと感謝されました。日本語指導の先生は週に3回ほどの訪問で、その他の日は担任の先生が指導に当たっています。英語だけなら話せる先生も多いのですが、中国語、ベトナム語、フィリピン語など多言語に渡ると先生方も読み書きができず、意思疎通が難しく困っていたそうです。

このプロジェクトで当クラブからAI翻訳機を寄贈した事をきっかけに、船橋市ではこの秋の補正予算で同型のAI翻訳機を200台購入する事を議決しました。市内の外国籍の児童生徒と帰国子女で日本語が話せない児童生徒合わせて222人の全員にAI翻訳機を貸与するそうです。

この事によりAI翻訳機は対象の児童生徒だけでなく保護者のみなさまにも様々な活用が期待されます。先日の贈呈式の際に、松戸市長が「船橋市在住の外国籍の皆さまに住みよいまちづくりと船橋市の良さを更に発信して行きたい」とお話されていましたが、その一部を即実行されたと感じました。今後は当クラブ会員の職業を生かした教育現場での相談やアドバイスを、先生や該当の外国人保護者を対象に無料相談を行うと共に、ここ日本における交通ルールの知識を高めていただくために絵本の寄贈を行う予定です。

今回は当クラブの社会奉仕活動 ～国際化が進む教育現場～「言葉の壁をなくそうプロジェクト」が船橋市内の日本語が解らない児童生徒とその保護者のみなさまに「言葉の壁」をなくし、更に楽しく生活して頂ける一助になったと実感しました。

